

登別市 孤独・孤立実態調査

「人々のつながりに関する基礎調査」結果

I. 調査概要

目的

登別市内の孤独孤立に関する実態の把握を行うことを目的として、市内の居住者に向けてアンケート調査を実施

調査実施概要

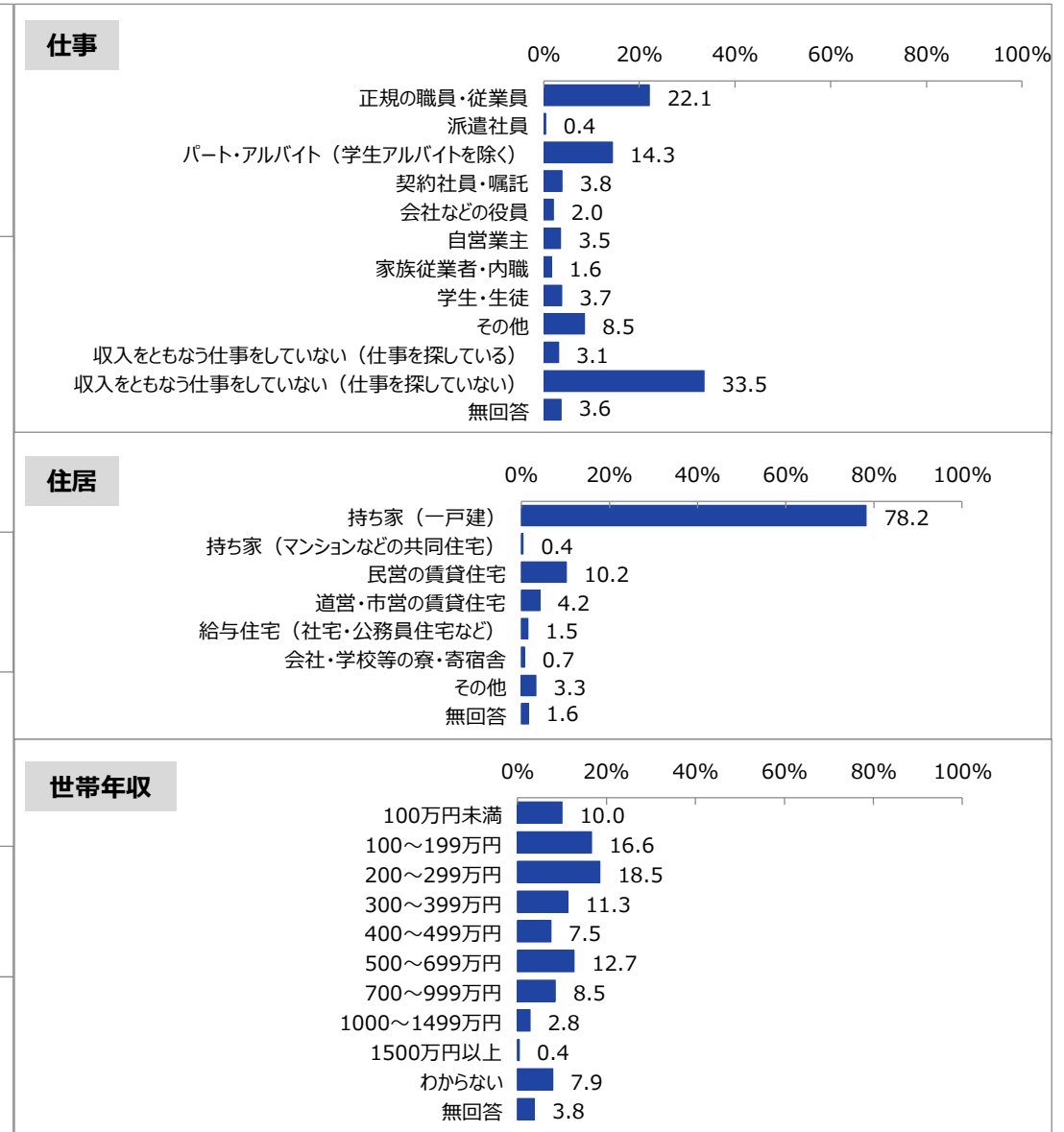
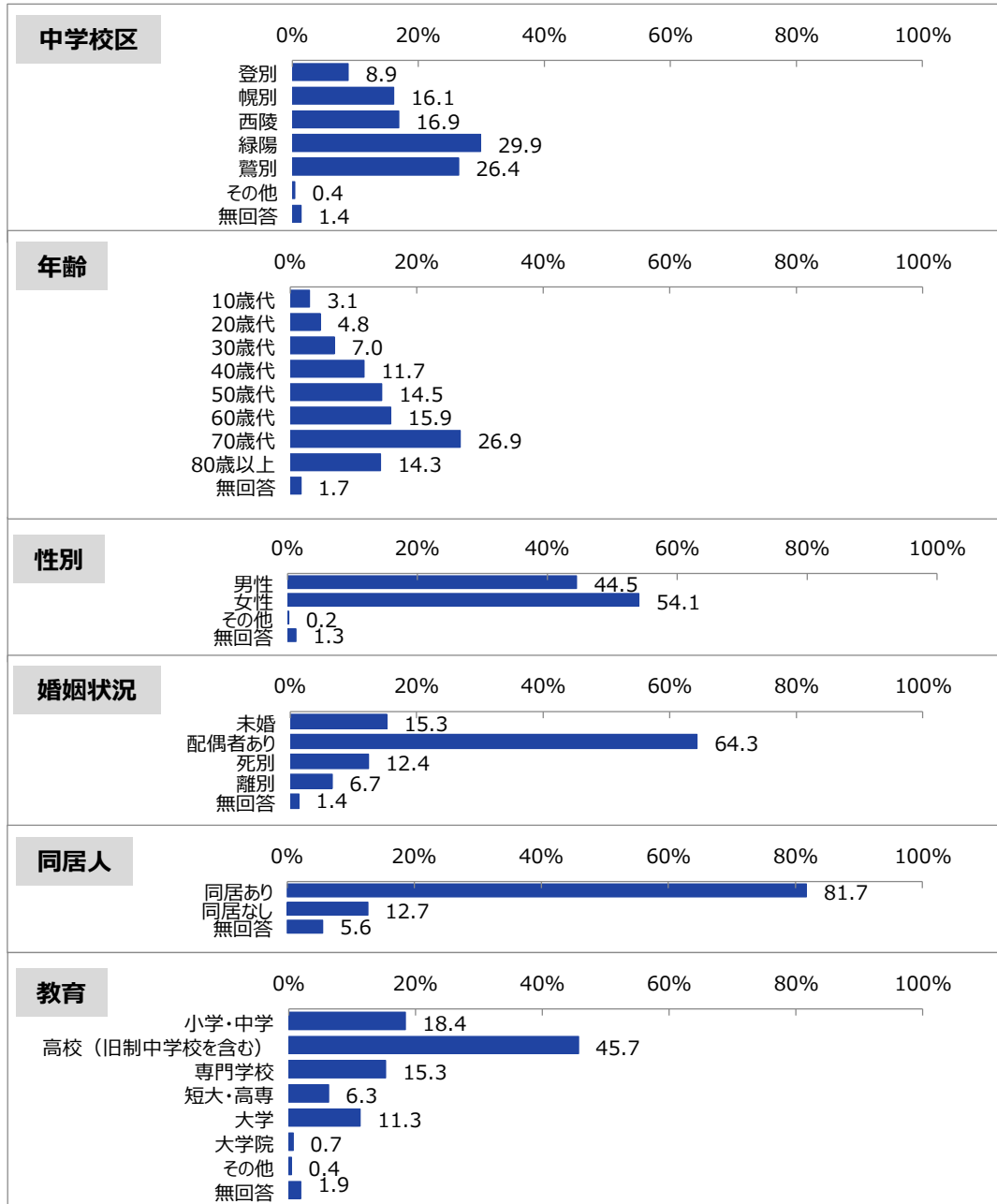
| | |
|----------|--|
| 調査名称 | 登別市 人々のつながりに関する基礎調査 |
| 調査対象 | 登別市内に居住する満16歳以上の個人 2,500人 |
| 抽出方法 | 住民基本台帳から無作為に抽出 |
| 調査方法 | 郵送配付 – 郵送回収又はWeb回答 |
| 調査期間 | 令和5年1月27日（金）～令和5年2月3日（金）※2月13日到着分までを集計 |
| 有効回収数（率） | 1,093件（43.7%） |

調査事項

| | |
|----------|--|
| 孤独に関する事項 | 孤独感（UCLA孤独感尺度・直接質問）、継続期間 これまでに経験したライフイベント（家族との離別・死別、人間関係の重大なトラブル等）、社会や他人とのかかわり方の満足度 |
| 孤立に関する事項 | 外出頻度、外出目的、行動範囲、社会的交流（家族・友人とのコミュニケーション手段や頻度）、社会参加（活動への参加状況） 各種支援の状況、他者への手助けの状況 |
| その他関連事項 | コミュニケーションツールの利用状況、不安や悩みの相談相手の有無、不安や悩みを相談する際の感情、心身の健康状態 コロナ禍におけるコミュニケーションの変化・生活の変化 |
| 属性事項 | 地域、年齢、性別、配偶者の有無、同居人の有無・数、収入を得ている同居人の数、教育・就業状態 居住形態（住宅の種類、持ち家か否か）、世帯の年間収入 |

II. 回答者の属性

■ 本調査では、1,093人の方から回答をいただきました。回答者の属性は、以下のような構成比になります。



Ⅲ. 調査結果の概要

孤独の把握方法・状況

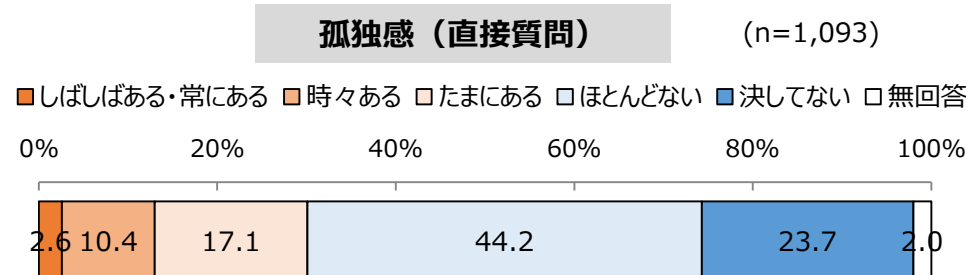
孤独という主観的な感情をよりの確に把握するため、この調査では2種類の設問を採用。

①直接質問

直接的に孤独感を質問。直接質問の結果、**孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は2.6%、「時々ある」が10.4%、「たまにある」が17.1%**であった。一方で孤独感が「ほとんどない」と回答した人は44.2%、「決してない」が23.7%であった。

問 あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。

- | | |
|----------|---------------|
| 1 決してない | 4 時々ある |
| 2 ほとんどない | 5 しばしばある・常にある |
| 3 たまにある | |



②間接質問

孤独という主観的な感情を間接的な質問により数値的に測定する「UCLA孤独感尺度」に基づく質問。3つの設問への回答を点数化し、その合計スコア（本調査では最低点3点～最高点12点）が高いほど孤独感が高いと評価。間接質問の結果、**合計スコアが「10～12点」の人が4.4%、「7～9点」の人が34.5%**であった。一方で「4～6点」の人が42.5%、「3点」の人が18.6%であった。

問 あなたは、自分には人とのつきあいが無いと感じることがありますか。

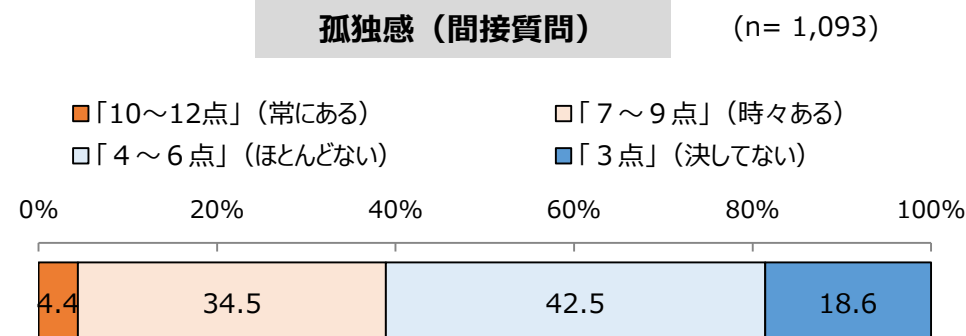
- | | |
|----------|--------|
| 1 決してない | 3 時々ある |
| 2 ほとんどない | 4 常にある |

問 あなたは、自分は取り残されていると感じることがありますか。

- | | |
|----------|--------|
| 1 決してない | 3 時々ある |
| 2 ほとんどない | 4 常にある |

問 あなたは、自分は他の人たちから孤立していると感じることがありますか。

- | | |
|----------|--------|
| 1 決してない | 3 時々ある |
| 2 ほとんどない | 4 常にある |



(参考) UCLA孤独感尺度

カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) の研究者が孤独という主観的な感情を間接的な質問により数値的に測定しようと考案したもの。本調査では上記の3項目の設問について、それぞれ**4つの回答選択肢(4件法)を設定**。「決してない」を1点、「ほとんどない」を2点、「時々ある」を3点、「常にある」を4点とし、その合計スコアにより孤独感の高さを測定。なお、調査によって尺度がアレンジされることがあり、英国では「しばしばある」(3点)、「時々ある」(2点)、「ほとんど・決してない」(1点)の3つの回答選択肢(3件法)を設定。

Ⅲ. 調査結果の概要

孤独の状況（全国調査との比較）

①直接質問

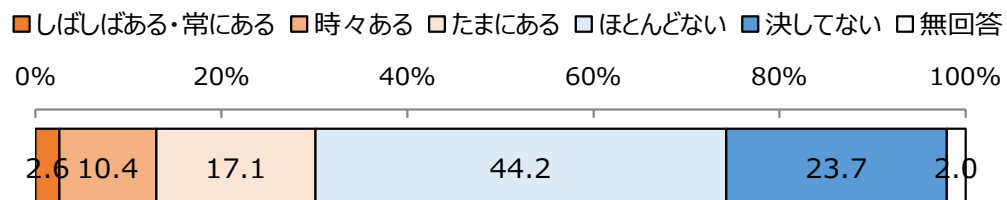
直接質問を全国調査（令和3年実施）と比較した結果、**孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、登別市の方がやや下回る**（登別市調査2.6%、全国調査4.5%）。また、**「決してない」と回答した人の割合は、登別市、全国共に変わらない**（登別市調査、全国調査共に23.7%）。

②間接質問

間接質問を全国調査（令和3年実施）と比較した結果、**合計スコアが「10～12点」の人は、登別市の方がやや下回る**（登別市調査4.4%、全国調査6.3%）。また、**「3点」の人は、登別市、全国共にほぼ変わらない**（登別市調査18.6%、全国調査18.5%）。

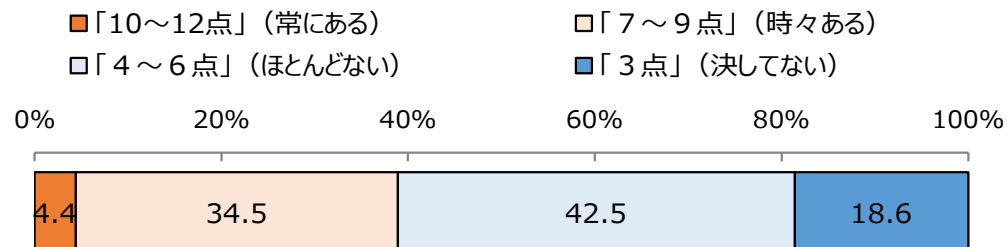
登別市

(n= 1,093)



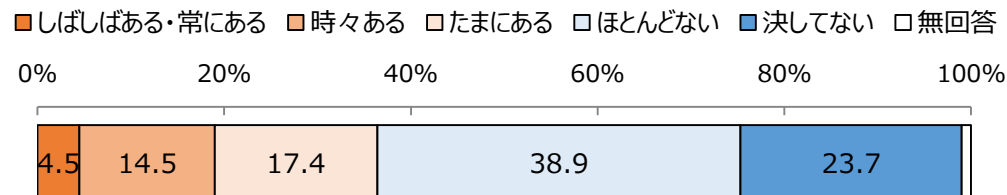
登別市

(n= 1,093)



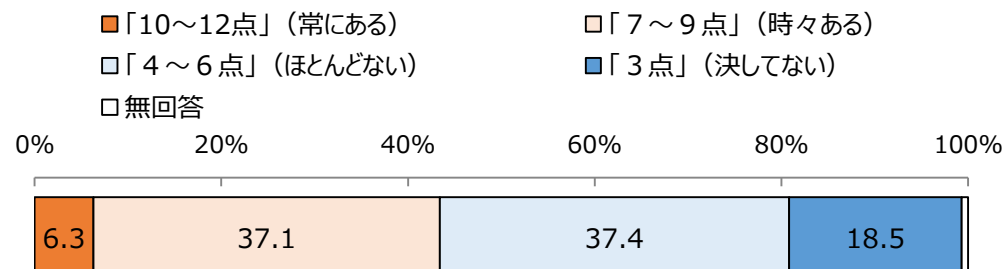
(参考) R3全国調査

(n=11,867)



(参考) R3全国調査

(n=11,867)

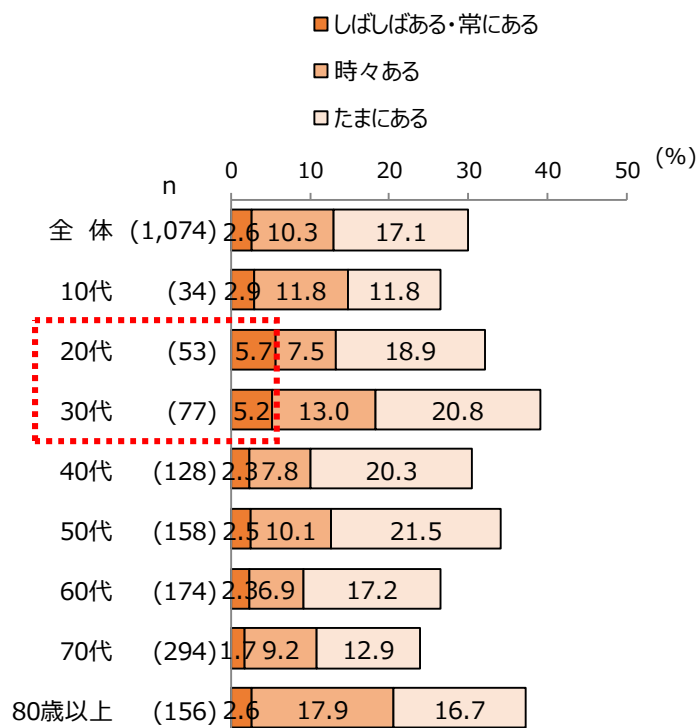


Ⅲ. 調査結果の概要

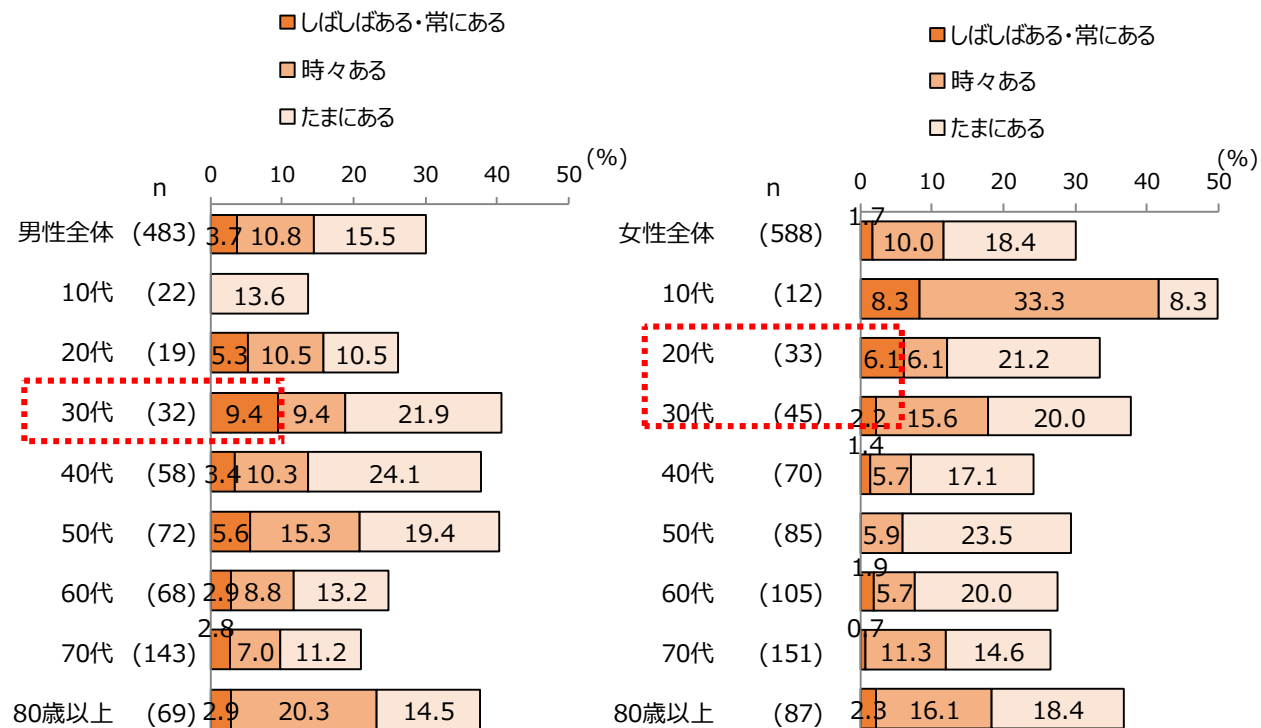
孤独の状況（孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合：性・年齢別）

- 孤独感が高い割合を年齢別にみると、**20～30代がやや高く、5%台**であった。
- 性・年齢別にみると、**男性は30代、女性は20～30代**と全体と比べてやや高い。一方、男性60歳以上、女性30歳以上では3%を下回っている。

孤独感（年齢別）



孤独感（性・年齢別）



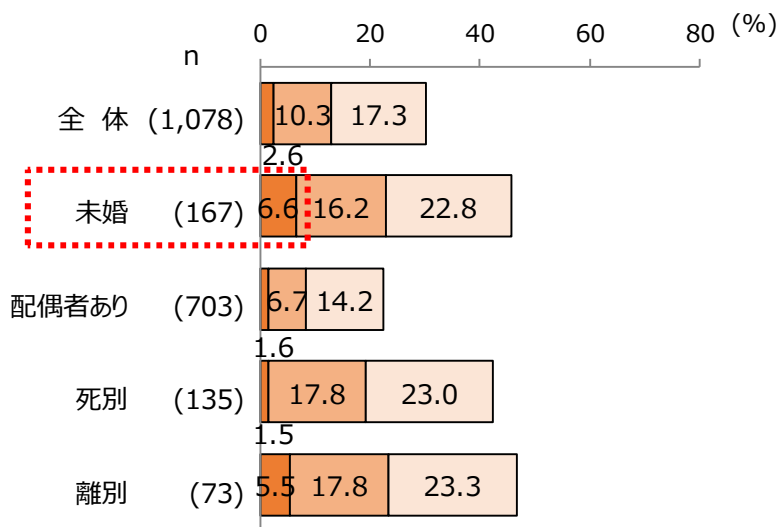
Ⅲ. 調査結果の概要

孤独の状況（孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合：婚姻状況別）

- 孤独感が高い割合を婚姻状況別にみると、**未婚で最も高く、6.6%**であった。一方、配偶者あり及び死別では2%を下回っている。
- 性・婚姻状況別にみると、**男性は離別で10.0%、未婚で8.0%、女性は未婚で5.1%**とやや高い。一方、配偶者あり及び死別は男女ともに低くなっている。

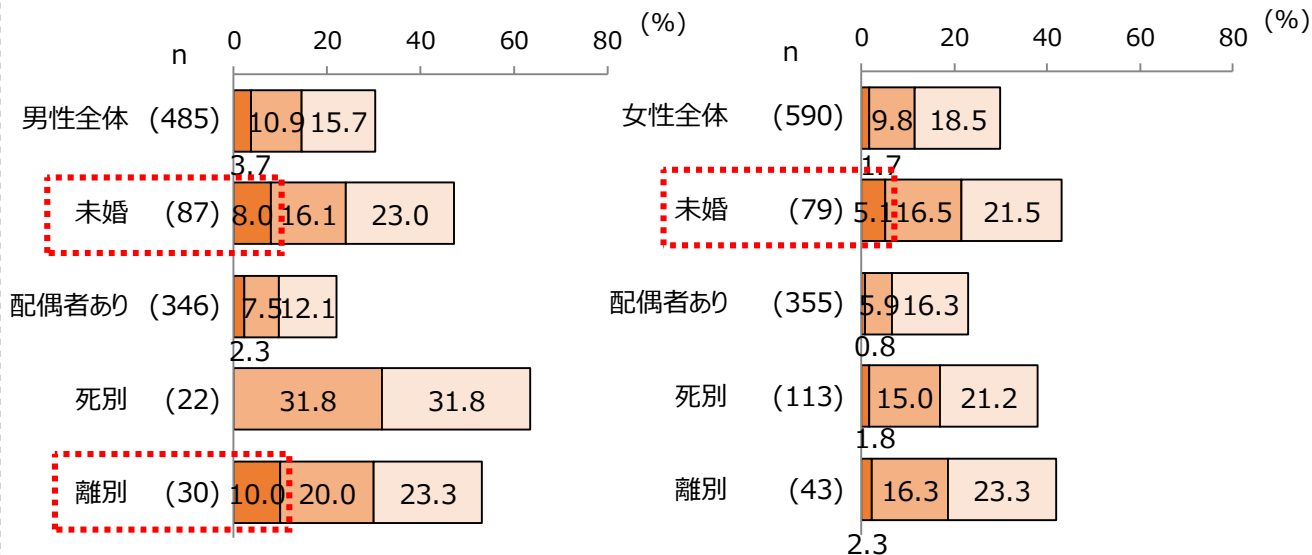
孤独感（婚姻状況別）

■しばしばある・常にある
 ■時々ある
 □たまにある



孤独感（性・婚姻状況別）

■しばしばある・常にある
 ■時々ある
 □たまにある

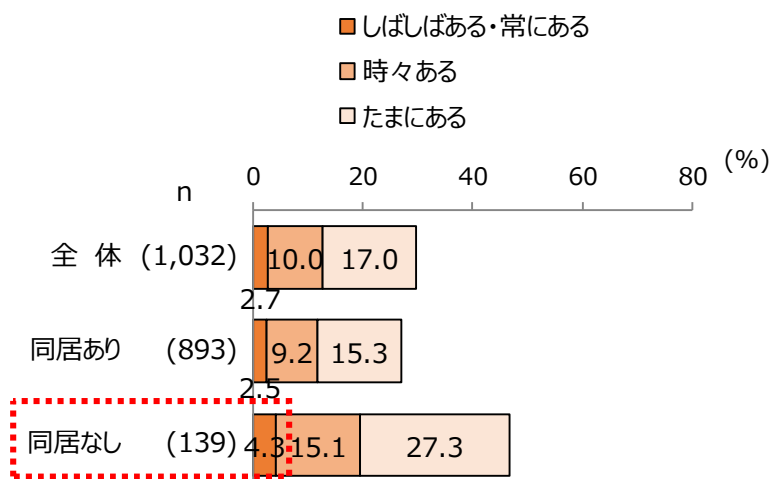


Ⅲ. 調査結果の概要

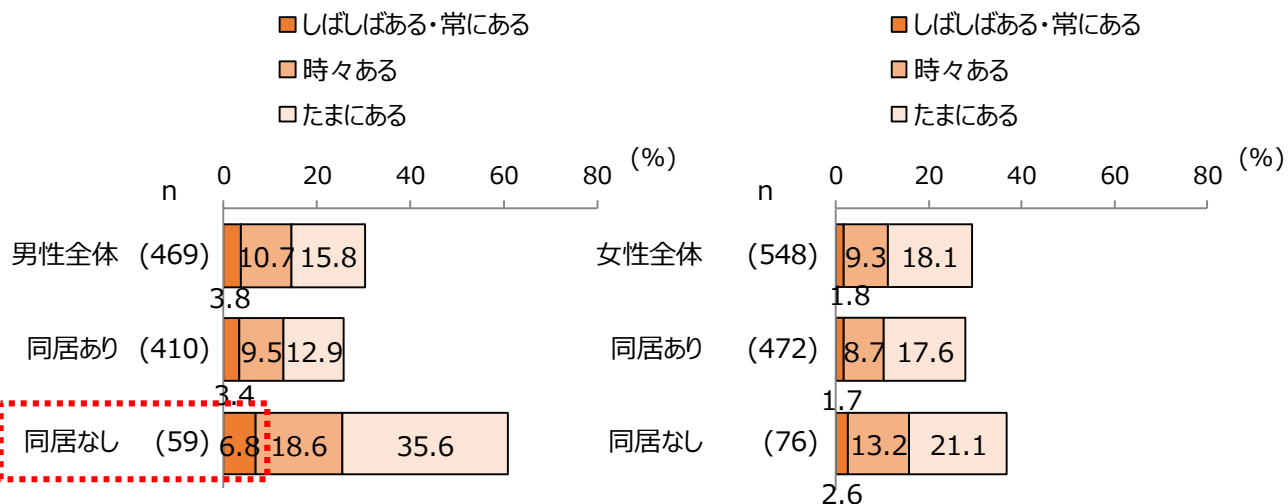
孤独の状況（孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合：同居人別）

- 孤独感が高い割合を同居人別にみると、**同居なしでやや高く4.3%**であった。
- 性・同居人別にみると、**男性は同居なしで6.8%**とやや高い。一方、女性は全ての項目で男性を下回っている。

孤独感（同居人別）



孤独感（性・同居人別）

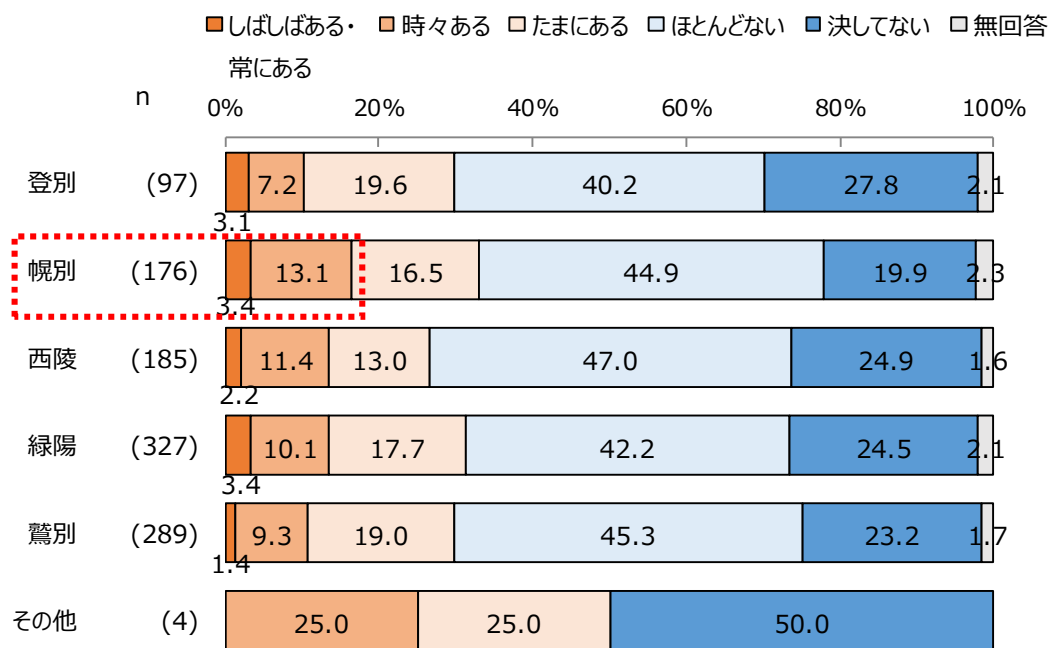


Ⅲ. 調査結果の概要

孤独の状況（中学校区域別）

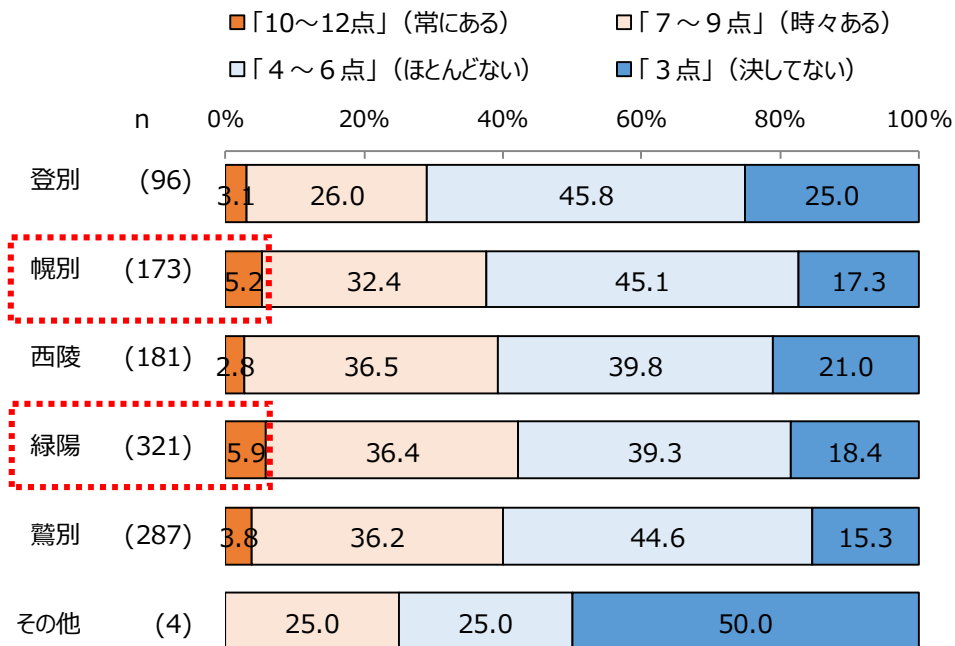
①直接質問

- 孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、大きな差は見られない。
- 孤独感が「しばしばある・常にある」、「時々ある」と回答した人の割合は、**幌別で16.5%とやや高くなっている。**



②間接質問

- 合計スコアが「10～12点」の人は、**緑陽が5.9%と最も高く、幌別が5.2%が続いている。**
- 合計スコアが「7点以上」の人は、**緑陽、鷺別で4割以上となっている。**

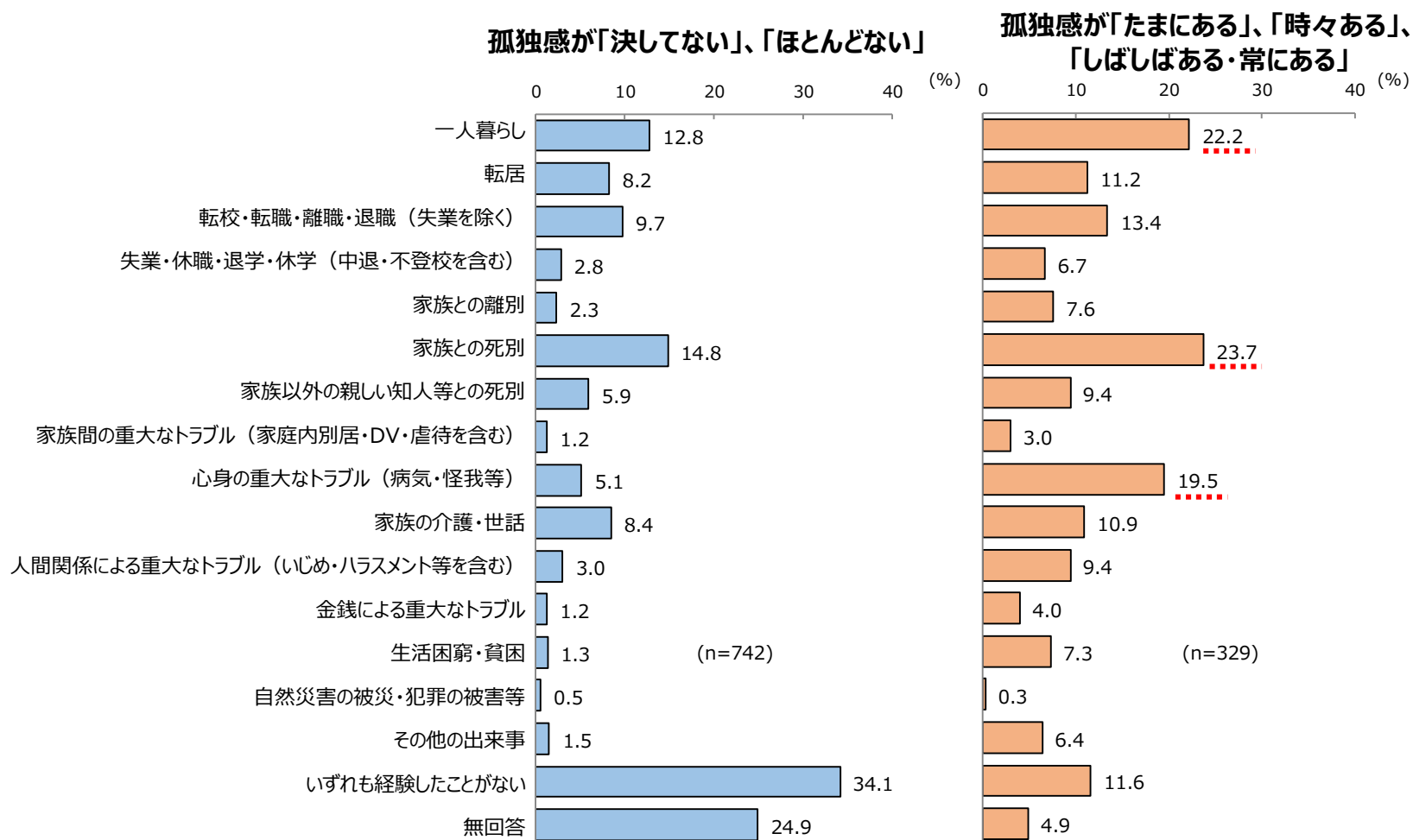


Ⅲ. 調査結果の概要

孤独の状況（現在の孤独感に至る前に経験した出来事）

- 孤独感が「たまにある」、「時々ある」、「しばしばある・常にある」と回答した人が、その状況に至る前に経験した出来事としては、**「いずれも経験したことがない」、「自然災害の被災・犯罪の被害等」を除く、全ての項目**で、「決してない」、「ほとんどない」と回答した人より上回っている。
- 特に**「一人暮らし」、「家族との死別」、「心身の重大なトラブル（病気・怪我等）」**を選択した人が多く、「決してない」「ほとんどない」と回答した人との差も大きい。

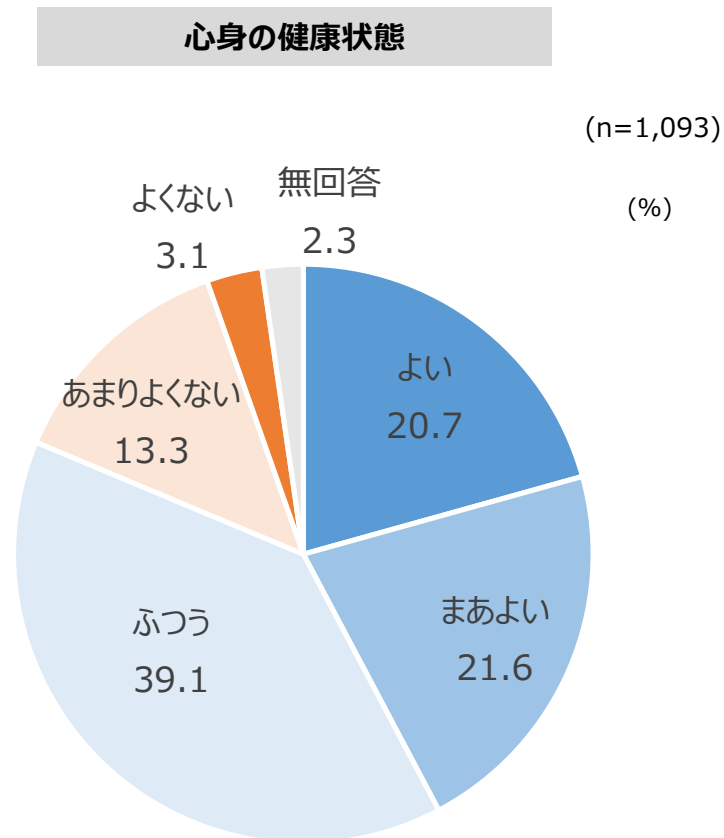
現在の孤独感に至る前に経験した出来事（複数回答）



Ⅲ. 調査結果の概要

心身の健康状態

- 心身の健康状態は、「よい」が20.7%、「まあよい」が21.6%、「ふつう」が39.1%。一方、「あまりよくない」が13.3%、「よくない」が3.1%で、**健康状態がよくないと回答した人は16.4%**となっている。



Ⅲ. 調査結果の概要

孤立の把握方法・状況

孤立については、国内の先行研究などを参考に、①社会的交流（家族・友人等との交流）、②社会参加（PTA活動、ボランティア活動、スポーツ・趣味等の人と交流する活動への参加）、③社会的サポート（他者からの支援）の状況から社会的孤立の状態を把握。

①社会的交流（家族・友人等との交流）

同居していない家族や友人たちと直接会って話すことが**全くない人の割合は9.4%であった。**

②社会参加（PTA活動、ボランティア活動、スポーツ・趣味等の人と交流する活動への参加）

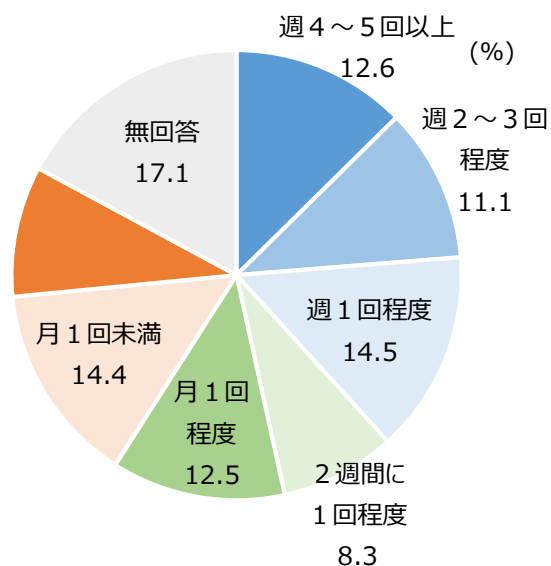
特に参加していない人の割合は62.7%となっている。なお、参加している人については「スポーツ・趣味・娯楽・教養・自己啓発などの活動（部活動等を含む）」に参加している割合が最も高く、**20.9%**であった。

③社会的サポート（他者からの支援）

支援を受けていない人の割合が88.8%であった。なお、全体では支援を受けている人の割合は5.0%であるが、80歳以上では13.5%とやや高くなっている。

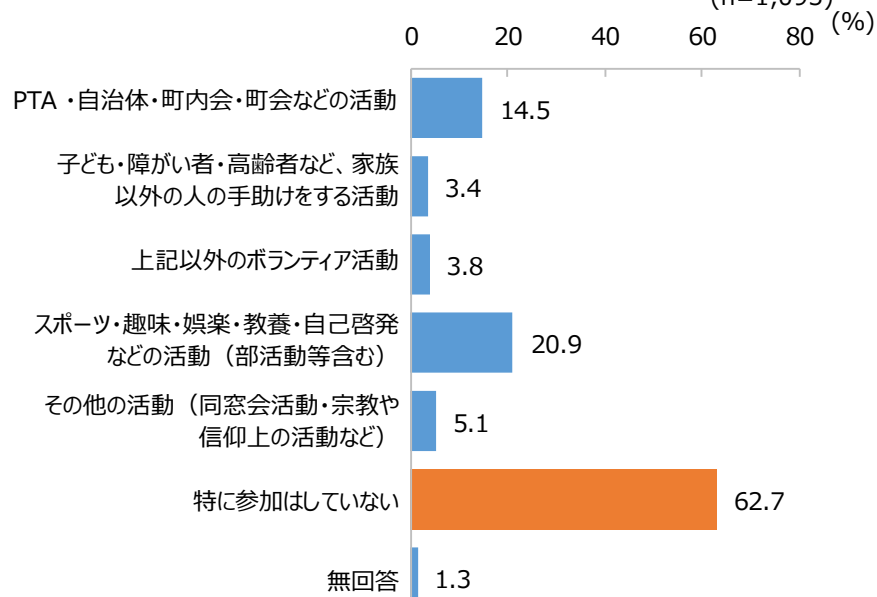
①社会的交流（家族・友人等との交流）

(n=1,093)



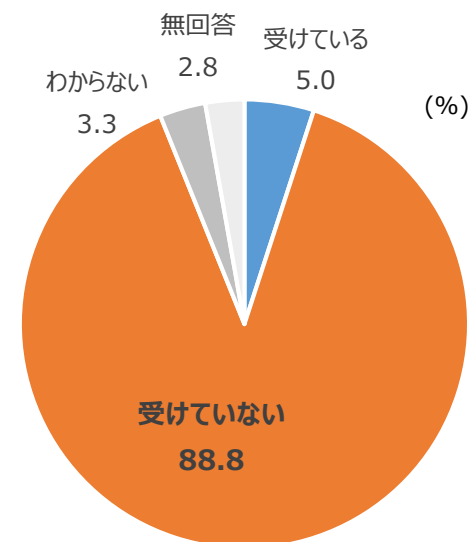
②社会参加（PTA活動、ボランティア活動、スポーツ・趣味等の人と交流する活動への参加）（複数回答）

(n=1,093)



③社会的サポート（他者からの支援）

(n=1,093)

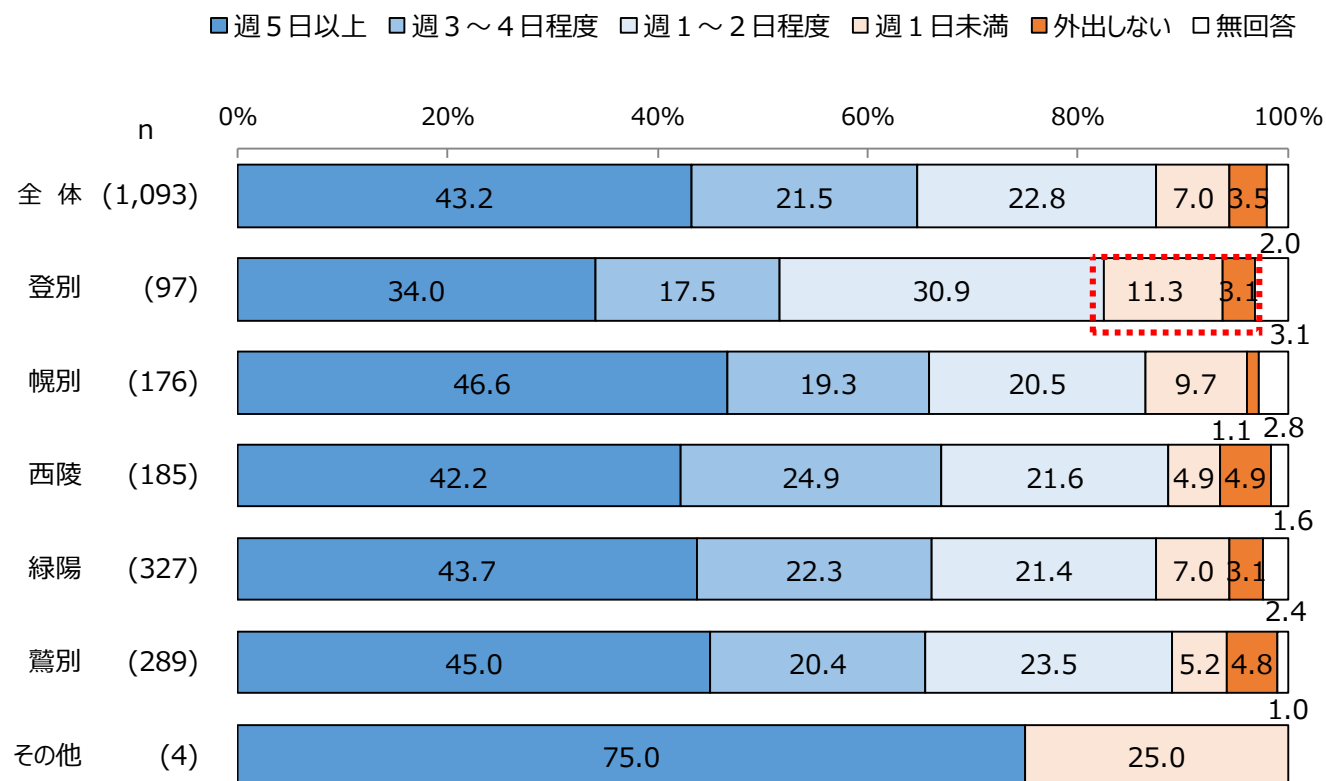


Ⅲ. 調査結果の概要

外出頻度

- 週5日以上外出する人の割合は43.2%。一方、**外出頻度が週1日未満の人は7.0%、外出しない人は3.5%**であった。
- 中学校区域別にみると、**登別では外出頻度が週1回未満（外出しないを含む）の人の割合が14.4%と他の地域よりやや高くなっている。**

外出頻度（中学校区域別）

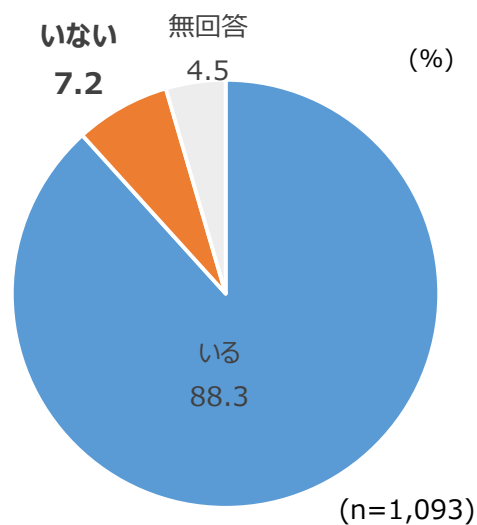


Ⅲ. 調査結果の概要

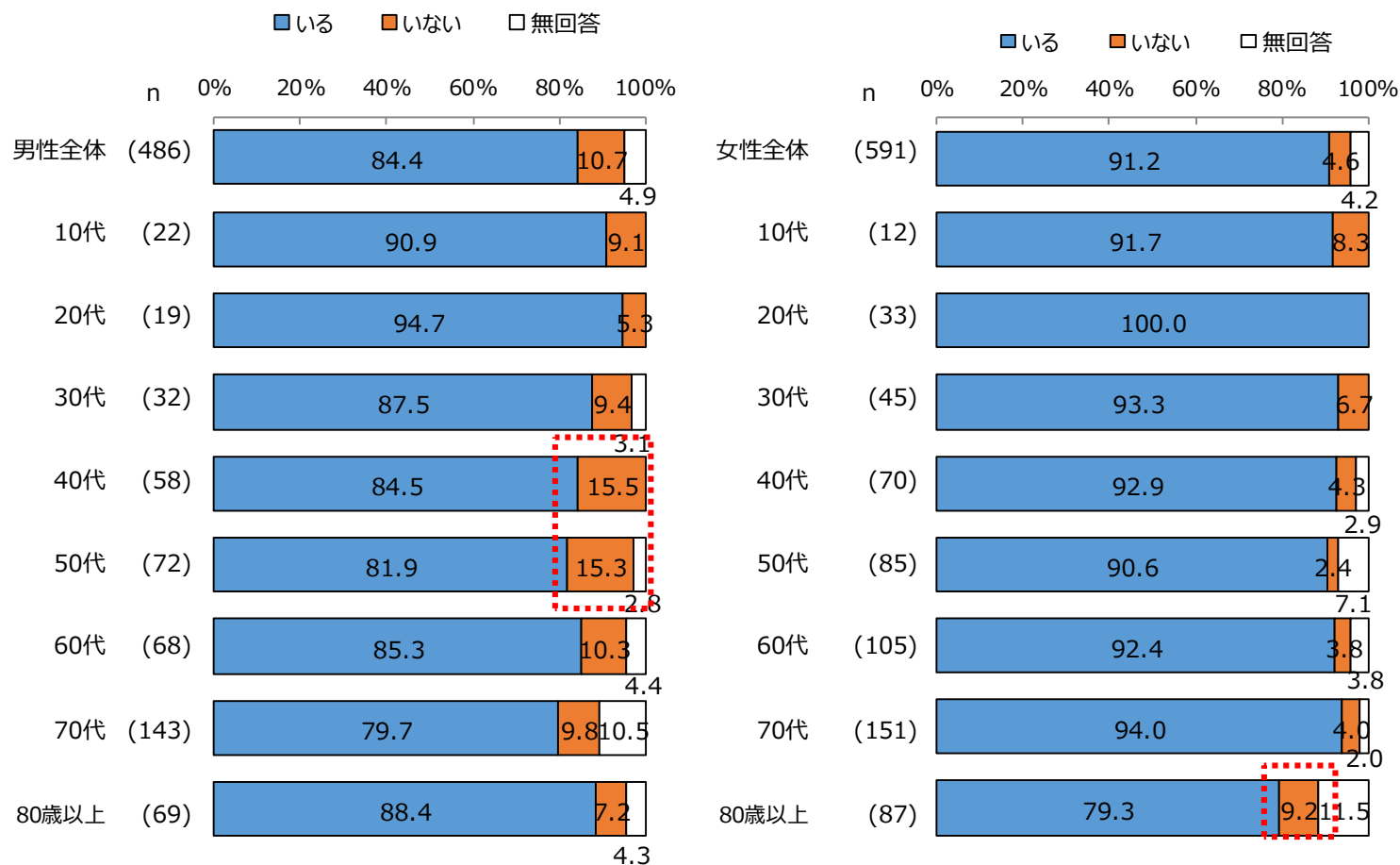
不安や悩みについて（１）相談相手の有無

- 不安や悩みの相談相手が「いる」と回答した人は88.3%、「いない」と回答した人は7.2%。
- 「いない」と回答した人を性・年齢別でみると、**男性40代～50代、女性80歳以上が特に高い。**また、「いない」人の割合は80歳以上を除く、すべての年代で**男性が女性を上回る。**

不安や悩みの相談相手の有無



不安や悩みの相談相手の有無（性・年齢別）



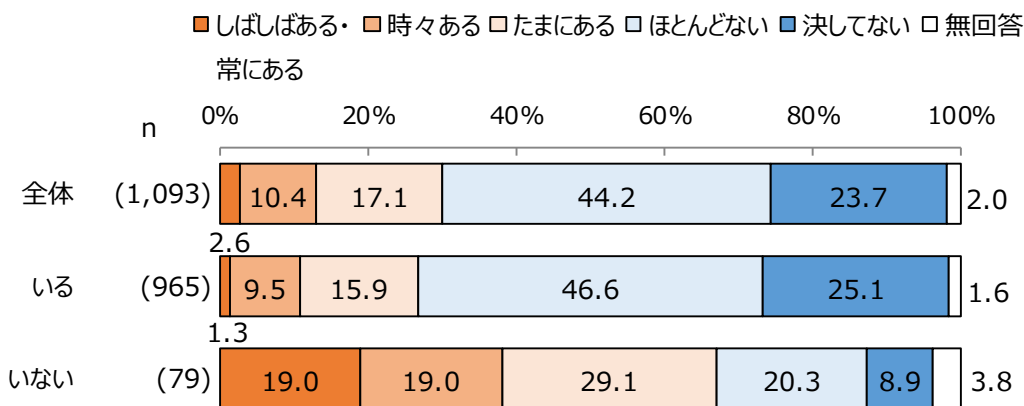
Ⅲ. 調査結果の概要

不安や悩みについて（２）不安や悩みの相談相手の有無別孤独感

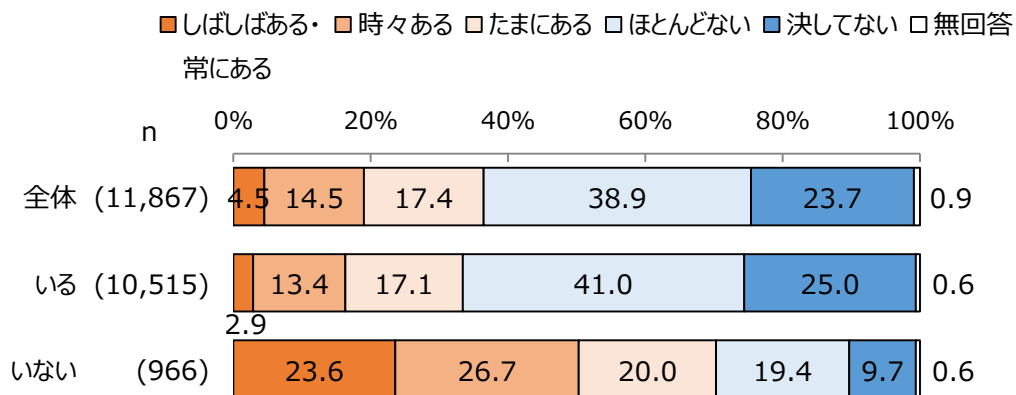
①直接質問

直接質問を、不安や悩みの相談相手の有無別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、**相談相手がいる人が2.6%、相談相手がない人が19.0%**となっている。

登別市（不安や悩みの相談相手の有無別）



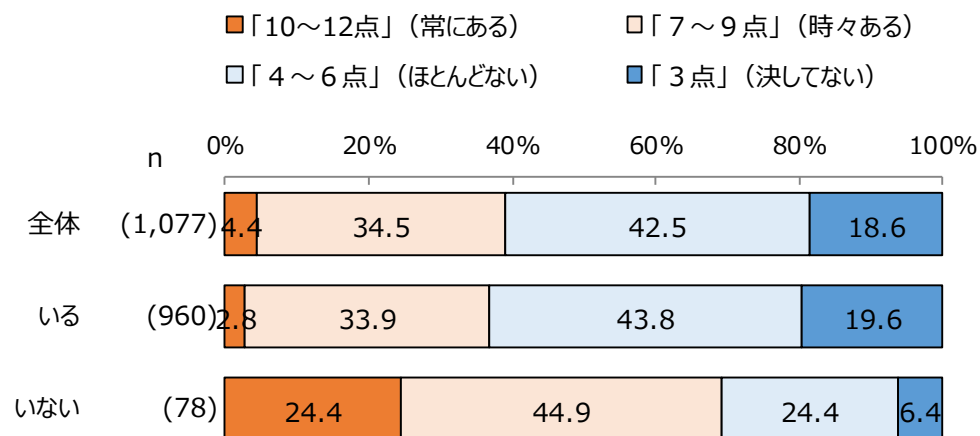
(参考) R3全国調査



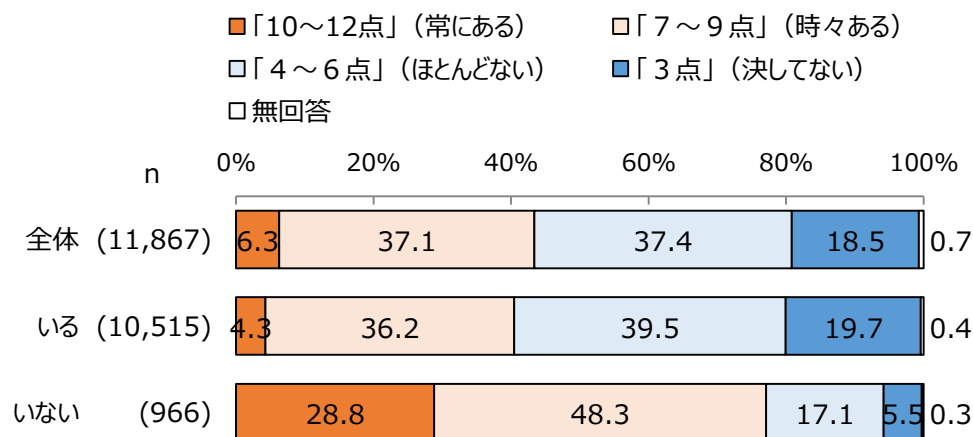
②間接質問

間接質問を、不安や悩みの相談相手の有無別にみると、孤独感スコアの合計が「10～12点」の人の割合は、**相談相手がいる人が2.8%、相談相手がない人が24.4%**となっている。

登別市（不安や悩みの相談相手の有無別）



(参考) R3全国調査



Ⅲ. 調査結果の概要

不安や悩みについて（２）相談をする相手

- 不安や悩みの相談相手は、「**家族・親族**（94.2%）、「**友人・知人**」（56.5%）、「**仕事・学校関係者**」（19.3%）が多い。
- 全国調査（令和3年実施）と比較すると、上位の選択された順は同様の傾向であるが、「**友人・知人**」（6.7ポイント差）では全国よりやや低くなっている。

